

4 新たな「多治見市高齢者保健福祉計画」の策定に向けた調査の概要

(1) 各種調査の概要

●本計画策定にあたっては、高齢者の実態を把握するため、国の指針に基づき「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」及び、「在宅介護実態調査」を実施しました。

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

要介護状態に至っていない高齢者に対し、その生活実態や課題を把握し、必要なサービス等を検討するための基礎資料を得ることを目的としています。

調査対象者	多治見市に居住する65歳以上の一般高齢者（要介護認定者を除く） 3,000人を無作為抽出
調査方法	令和4年12月、郵送法

調査数(A)	3,000通	有効回答数(B)	2,247通
--------	--------	----------	--------

② 在宅介護実態調査

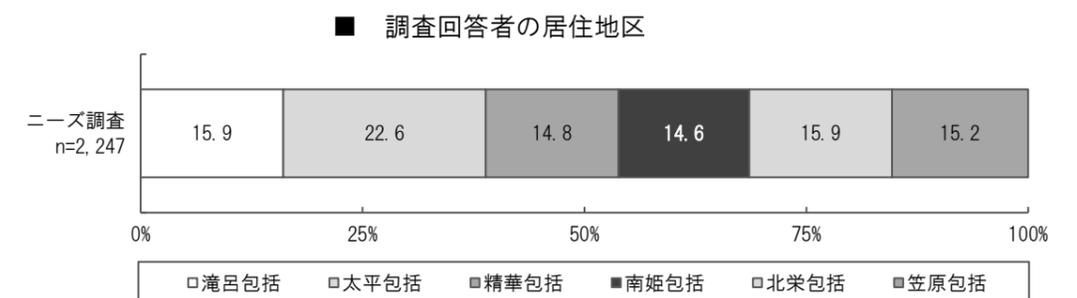
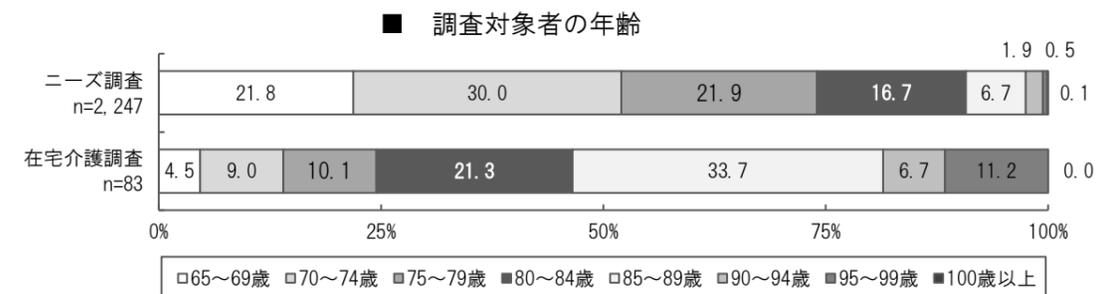
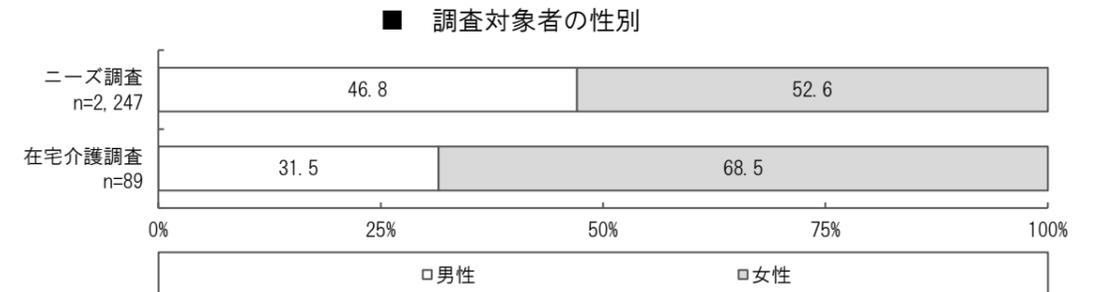
在宅で生活する要支援・要介護高齢者と、その主な介護者（家族）に対し、介護離職の有無や必要なサービス等を把握することにより、高齢者の在宅生活の継続に必要なサービス・支援等を把握するための基礎資料を得ることを目的としています。

調査対象者	在宅で介護を受ける要支援1以上の市民
調査方法	令和4年12月、郵送法

調査数(A)	202通	有効回答数	101通
--------	------	-------	------

(2) 調査結果の概要

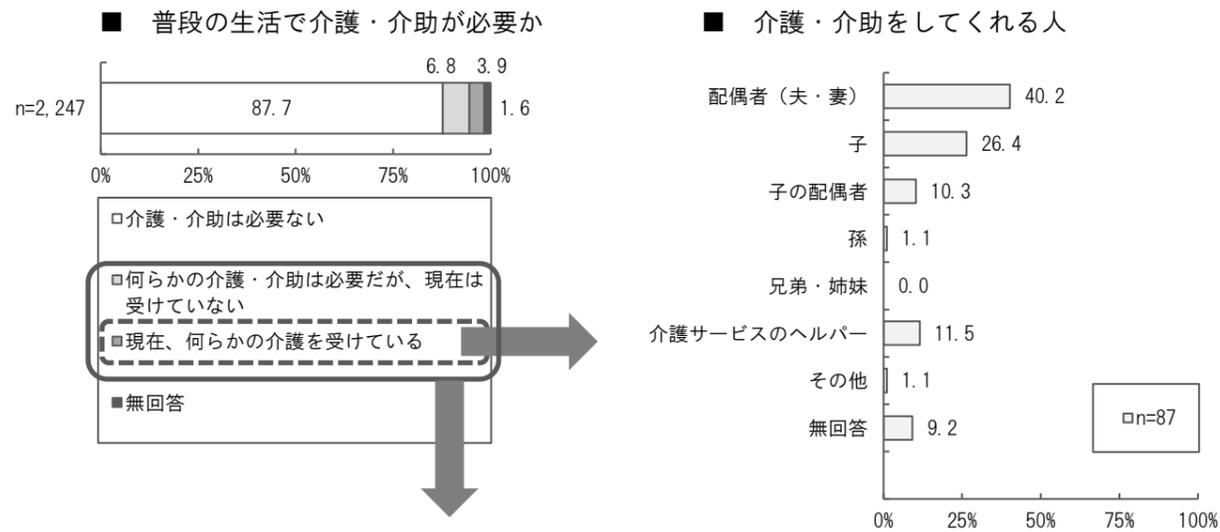
① 調査回答者の属性



<介護予防・日常生活圏域二一ズ調査>

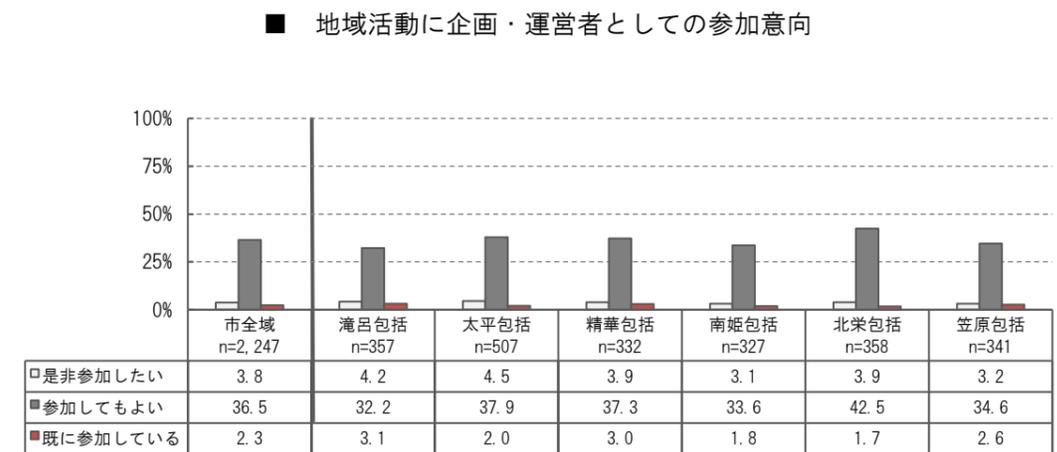
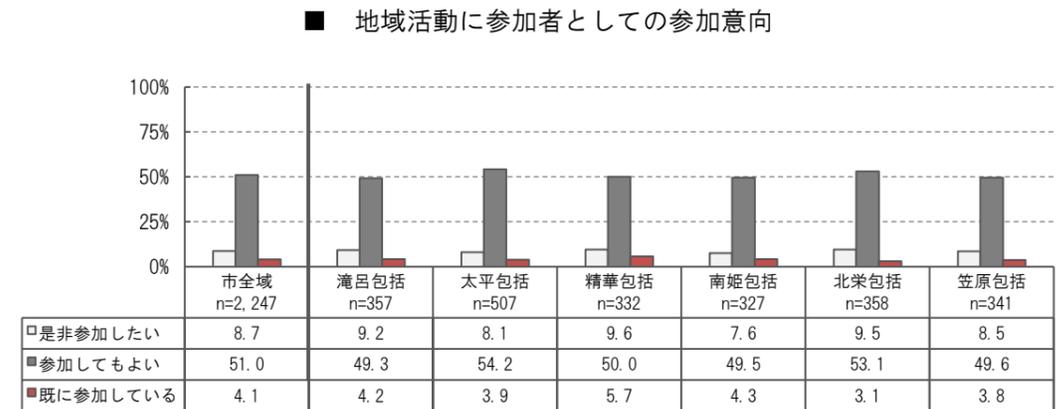
① 日常生活における介護（介助）の状況

- ・現在何らかの介護を受けている方は 3.9%あり、そのうち、「配偶者（夫・妻）」から介護・介助をしてもらっている方が 40.2%と最も高い。
- ・介護・介助が必要になった原因は、「高齢による衰弱」（21.3%）が最も高い。



② 地域活動への参加意向

- ・地域活動に参加者として参加意向がある方は、北栄包括で最も高く（62.6%）、既に参加している方は、精華包括で最も高い（5.7%）。
- ・企画運営者としての参加意向がある方も、北栄包括で最も高く（46.4%）、既に参加している方は、滝呂包括で最も高い（3.1%）。



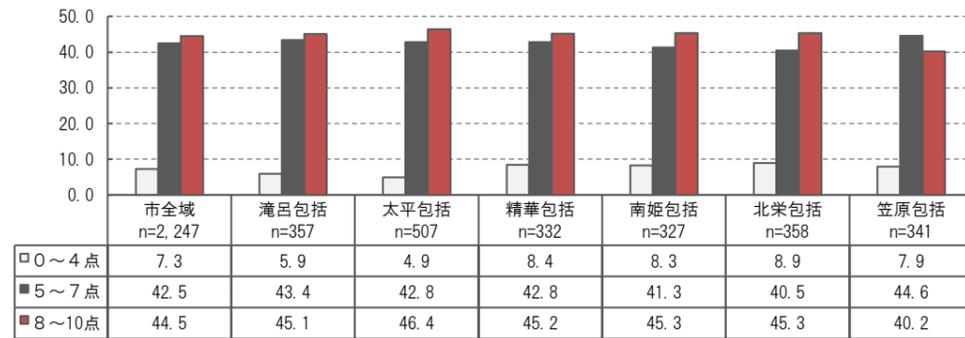
③ 健康感や幸福感について

- 主観的健康感では、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた方は、滝呂包括が最も高く（80.7%）、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた方は、笠原包括が最も高い（20.0%）。
- 主観的幸福感が高い人の割合（「8～10点」）は、笠原包括で40.2%と他の地域よりもやや低いものの、他の地域では4割台半ばを占める。

■ 主観的健康感



■ 主観的幸福感

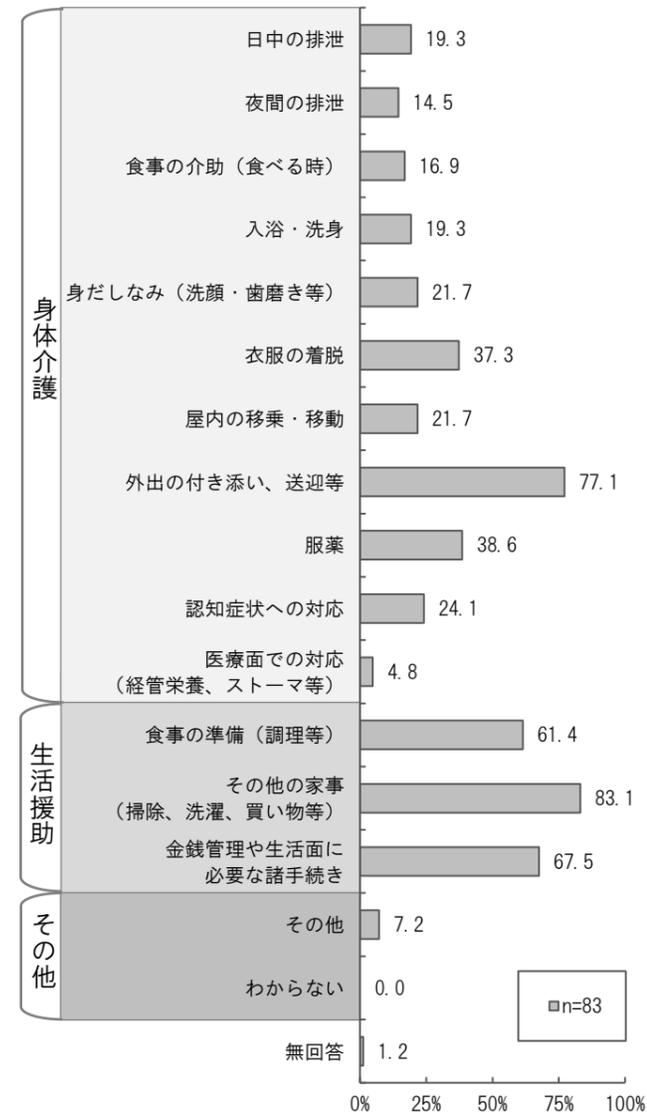


<在宅介護実態調査>

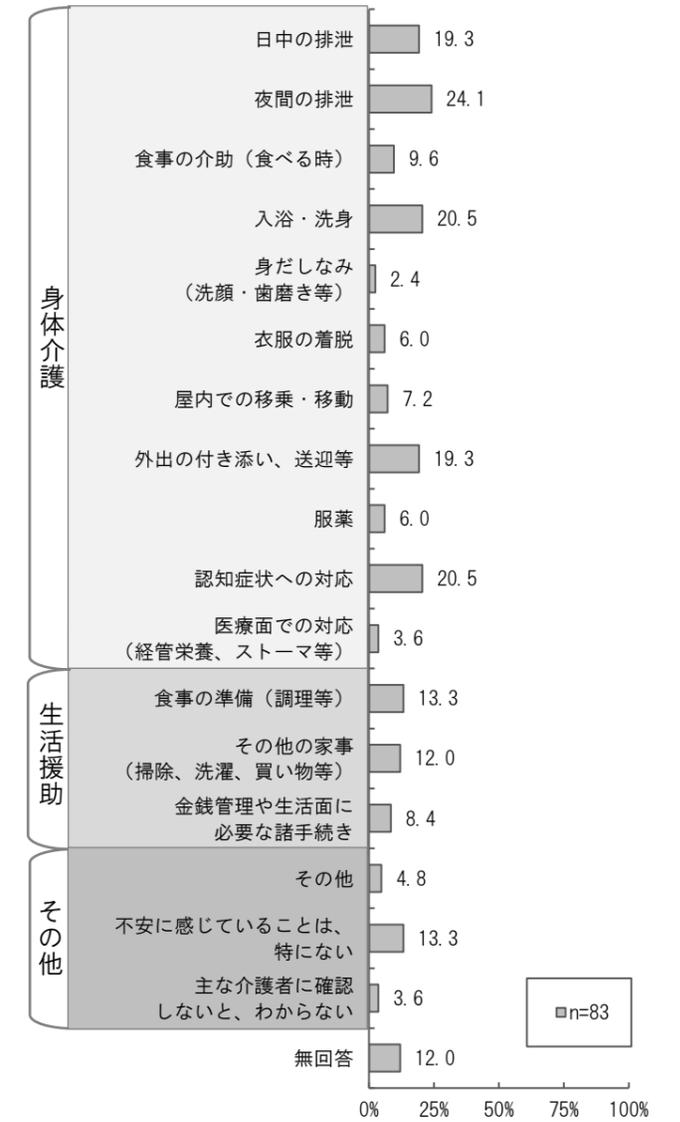
① 介護実態

- 主な介護者が行っている介護等は身体介護の「外出の付き添い、送迎等」、生活援助の3項目において割合が高い。
- 主な介護者が不安に感じる介護等では身体介護の「夜間の排泄」、「入浴・洗身」・「認知症状への対応」が上位3項目となっている。

■ 主な介護者が行っている介護等



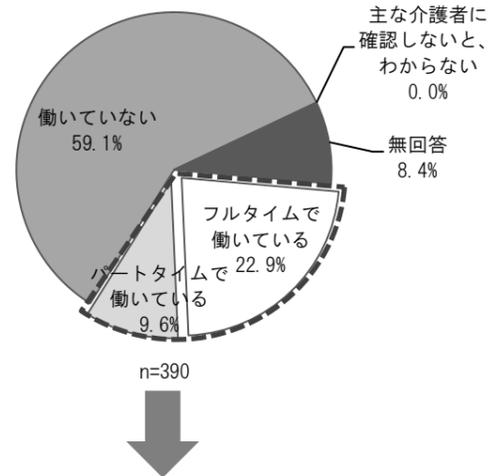
■ 主な介護者が不安に感じる介護等



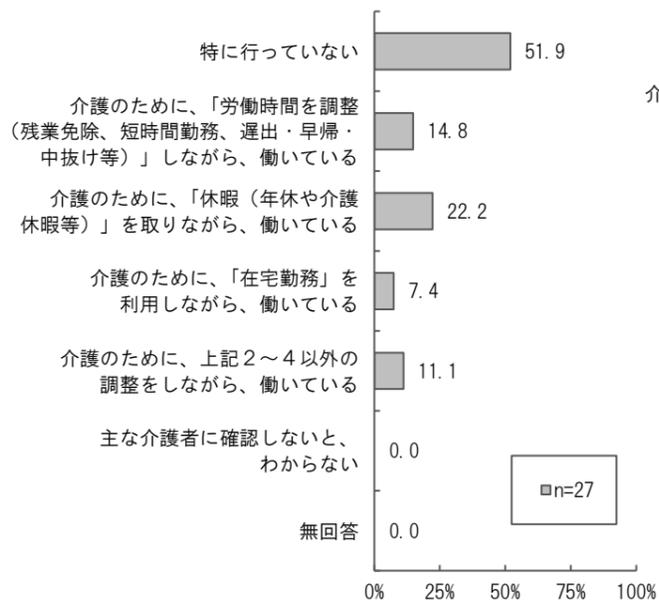
② 介護と就労について

- 主な介護者の32.5%が就労している。このうち、働き方の調整を行っていない方は51.9%。
- 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援は、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（29.6%）が最も多く、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」・「制度を利用しやすい職場づくり」（同率 25.9%）などが続く。

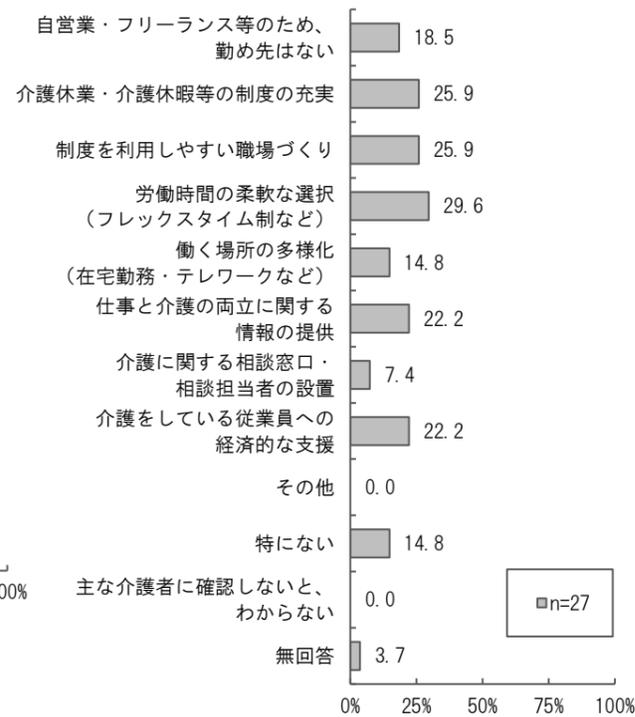
■ 主な介護者の就労状況



■ 働き方を調整しているか



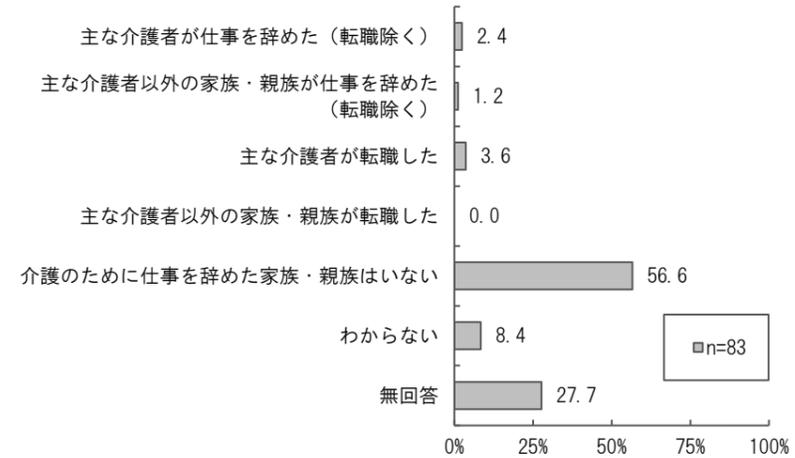
■ 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援



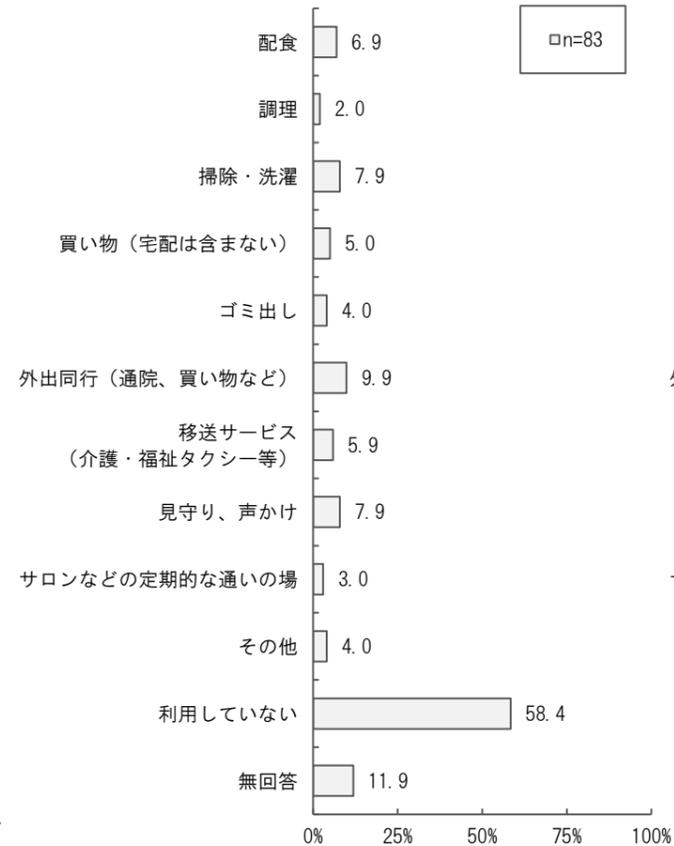
③ 介護のための離職・転職の状況

- 主な介護者が離職した方は 2.4%、主な介護者以外の方が離職した方は 1.2%、主な介護者が転職した方は 3.6%。
- サービス利用状況は、「利用していない」方が58.4%と最も高く、利用している支援・サービスの中では「外出同行（通院、買い物など）」（9.9%）の割合が高い。
- 在宅生活を続けていくために必要な支援・サービスは「外出同行（通院、買い物など）」（28.7%）が最も高い。「特になし」は26.7%。

■ 家族・親族の介護による退職・転職状況



■ 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況



■ 在宅生活を今後も続けていくために必要な支援・サービス

